



日に新た



加賀市立片山津中学校 学校だより 4月号 文責 校長 山下 悟

片山津中学校学校教育ブランドデザインは、BE THE PLAYER 加賀市学校教育ビジョンの実現（夢の実現）を目指しています。その実現を目指す具体的な取組として、夢をかなえる四つの要素を決定し、本校の特色を十分生かしながら、どのような方向を目指していくかを見える化しました。その四つの要素は、各教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動等、各学年の取組みに合わせ、じつりと三年間かけて夢の実現、自己実現に向かっていきます。

四つの要素は、SWPBS、SWCo、SWTONカンパニー、PLANS、STEAMです。特に、今年度より新規にチャレンジすることとして、SWCo、SWTONカンパニーがあります。これは至徒による会社の起業体験です。生徒たちは将来どのような形であれ、事業を興したり、企業に勤めたりするわけですが、自分がやってみたい仕事や事業があれば、その会社を作り、そこで働いてみるのが一番だと思っています。一月に視察してきた長野市立東部中学校さんでは、目的をもって自主的に、かた意欲的に取組んでいる生徒の姿を目の当たりにしてきました。まさに、私が考える「夢授業」がそこにありました。今はまだ準備段階ではありますが、SWCo、SWTONカンパニーを早く軌道に乗せたいと考えています。

『夢なき者に成功なし』

夢の実現を支える4つの要素

☆4つの要素を基に、様々な教育活動の機会を通じて、夢の実現を可能にするための活動を行います。

PROJECT 02
SWPBS

SWPBS（学校の発展のポジティブな行動計画）による「夢授業」は、夢や目標を通して生徒の望ましい行動を引き出すものである。効果としては望ましい行動を増やすことで、望ましくない行動を減らしていくことができる。更に生徒の自己意識や、やる意、意欲、モチベーションを高めることができる。教員はこの効果を体験、共有することで、再び自前で生徒と関わるようになることができ、より一層生徒の成長を支援、指導することができる。このように生徒の成長・学習意欲が促し、その効果が認められることで、学校は生徒の個々の可能性が保護されている学び舎となり得る。その実現を図るために、「学習計画」を行い、学習計画では実行可能な生徒の成長や課題を、他の教員も支援して取り組める機会を増やす。より多くの目で見ることで、より多くの生徒の成長に気づき、声援の場面を作る。教師はあくまでも伴走者でありたい。私たち教員は、「学び舎は常に正しい」という視点に立って教材研究及び授業を行い、生徒がつまづいている点や学びの障壁を、必要なら手を差し伸べるように努める。（個人攻撃の場にならない）また、SWPBSは、生活規律やルールなど学校生活全般での生徒の望ましい行動を引き出すものであると同時に、学習においてもその効果を上げ得る行動の方向性であるという効果を共有し、各教員が履いて、方向性を同じくして取り組んでいく。

PROJECT 01
SwCo.

SwCo. (Swan Company: スワフンカンパニー) は、一言でいうと「生徒による会社の起業、経営体験」である。生徒が経営者をもって学校や地域、そして卒業先を見据えて、自分たちのために会社を起業し経営することを通して、生徒の主体的、協働的、創造的な力を培う機会として位置付けている。生徒が経営者をもって「やってみたい」「人の役に立つ」会社を起業して活動することで、やりがいや達成感、そして働く楽しさを味わいながら、将来的な社会貢献できる人間として、中学からキャリア形成を図ることができるよう取り組んでいく。この取り組みを通して生徒の自己意識、自己肯定感、協働性を高め、生徒一人一人が輝く「企業という社会」の実現を目指していく。また、コミュニケーションスキルと共に地域社会や地域の企業とも連携、協働を促しながら、持続可能な社会の創り手として自ら課題を求め、解決することができる生徒を育成していくことを目指す。

PROJECT 03
PLANS

PLANSでは、自分の将来を考える上で何が大切な情報を捉え、なりたい自分、将来の夢、目標等を考えたり達成したりするための技術やスキルを身に付けていく。目標を達成する為の技術があることや、結果の目標ではなく、行動の目標を立てることの重要性を、本校で使っている生涯ノートを活用して身に付けていく。具体的には、ポジティブ行動マトリクスの実践と振り返り、PT（プランニングタイム）を活用し、日々の学習について、計画的に取り組む習慣を身につけて、将来の社会で生きていく上で必要なプランニング能力や、スケジュール管理能力の獲得を目指している。さらに、総合的な学習の時間において、自分の将来を設計し、そこから現在の自分を見つめることができるようにライフプランニングの授業にも取り組んでいく。Society's 3の社会をたくましく生き残る、社会の在り方に責任を有する主体者として、自己の個性や能力を生かして活躍する自立した人間として主体的に社会参画していくことが求められている。そのためにも、他者と協働して創造的問題解決していくためのコミュニケーション能力も身に付け、計画的にキャリア形成を図っていく。

PROJECT 04
STEAM

創造的・実践的な学びと協働的な学びを求め、これからの生徒たちが Society's 3 以降の社会において実用的な資質・能力を養い、新たな価値を創造していくためにSTEAM教育は有効であると考え、本校では中3～3年次より総合的な学習の時間において、「地域活性化」を推進するために「IT」機器やプログラミングなどの活用を通して取り組んでいく。その結果、一歩の成果を上げることができている。今年も継続して取り組んでいくが、それと同時に今年5年次は、総合的な学習の時間で培った資質、能力を生かして、各教科においても数科的・理学的にSTEAM教育にチャレンジして行く。なお、各教科でSTEAM教育を進めるにあたっての観点とは、

- ①2つ以上のSTEAM領域が含まれた学習内容であること。
- ②問題解決的な学習に取り組むこと。
- ③異分野の知識解決を学習内容に取り入れること。

原則上の枠組みではなく、アウトプット（プレゼン等）まで行うこと。とし、この4つを含めた要素を各教科でのSTEAM教育実践目標と捉え取り組んでいく。

令和5年度加賀市立片山津中学校学校教育ブランドデザイン

「学校教育目標」
温かな人間関係の中で生き生きと自主的に活動し、持続可能な社会の創り手として自ら課題を求め、解決することができる生徒を育成する

☆自ら考え、学び、自他の良さに気付く生徒 ☆自らの考え・主張を自分の言葉で伝えられる生徒
☆お互いに認め合い、助け合う生徒 ☆将来の夢や希望を持ち、自主的にその実現のために努力できる生徒

目指す生徒像 目指す教師像
夢を語り、夢を持たせる、夢先案内人 誰もから信頼される教師

豊かな人間性 健康・体力
温かな人間関係 持続可能な社会の創り手

資質・能力の育成
よさに気付く力 (創造) 伝える力 (発信) 関わる力 (協働) 挑戦し、やり抜く力 (挑戦)

BE THE PLAYER 夢の実現

興味を持つ 振り返る 実行する 課題設定する

STEAM PLANS SWPBS SWCo.

年度の初めに当たって。 ―学年担任制にこだわることの意味―

今年度より、「学級担任制」から、「学年担任制」を採用しました。なぜ、「学年担任制」にこだわって実施しようとしているのか。その答えは、生徒の主体性の伸張と、自己肯定感の醸成にあります。この二つを実現することが「生徒の心の成長＝温かい人間関係作り」としてとらえてほしいと思います。私たち教師は、何気なく、ついつい指示命令で生徒を動かしています。そこには生徒自身が自ら判断や強い意思で動いているのではなく、いわゆる「指示待ち人間」、主体性のない生徒」を学校教育の中で作り上げているといつても過言ではないと思っています。

本校では一昨年より「自由服登校週間」に取り組んできました。今はそれほどではないのですが、初めて実施した時の生徒一人一人の笑顔やその時の生徒会役員の発言を思い出してください。生き生きしながらインタビュに答えていました。一言一句、教師の指示や命令から言わされている言葉はありませんでした。スタート時は、教師の思いも強かったかもしれませんが、計画を進めていく中で、生徒たちの思いや考えが大きくなり、インタビュにつながっていったと思っています。

教師は、自身のフィロソフィーは勿論、多様な考えや価値観をもつ生徒に接してください。私たちが中学校で預かっている生徒たちが、これから放たれていく社会は、マジョリティが主導権を持つ社会ではなく、マイノリティをも尊重し、多種多様なものの見方を認めていかねばなりません。いつまでも固定観念や無意識の偏見、アンコンシャスバイアスに囚われていてはいけないのです。そのためにも中学生のこの時期に、どれだけ経験させられるかが、KEYだと思っています。ただし、好き勝手に自分の思いだけでいいのではなく、今回示した学校教育ビジョンに沿って行っていたきたいのです。ここだけは私たち片山津中学校に勤めるものとしてブレないで欲しいです。

また、自己肯定感の醸成については、SWPBS がその役目を果たします。複数の教師の目で生徒を「色眼鏡」をかけることなく見抜いてほしいと思います。より多くの目で捉えることで、生徒が持つ内なる善に気づき、それを引き出してほしいと思います。ローテーションはその最善の方法と考えています。授業の中だけではない、素のままの生徒を見抜き、良さを感じ取り、言葉で伝える。これが「愛語」であると思います。愛語よく廻天の力ある…。」

最後に、SWPBS 学校規模のポジティブな行動支援)については、今年度の学校研究の柱です。教職員全員の共通理解と共通実践が大切になります。趣旨を理解して、晋からしていること…。と捉えるのではなく、応用行動分析学という理論を根拠に執り行われるものです。研修の機会には積極的に参加し、深い理解に努めてください。今後、大学教授等の助言をいただきながら進めていく予定です。さらに、これらの共通理解と共通実践は、授業での基礎基本の定着、学習内容の理解につながると信じています。ですから放課後学習は一切行いません。教職員の皆さんは、授業でSWPBSを実践され、それを普段の授業で生かしてくれることで、学力の保障、向上につながります。全教職員が信じて行う。これが大切です。年度のはじめに当たって、教職員全体で確認しておきたいことを述べました。今年度もどうかよろしく願います。

令和5年4月3日(月)

加賀市立片山津中学校 校長 山下 悟

※令和5年度が始まるに当たって、本校教職員(校長の思い、考えを述べさせてもらいました。 第1回職員会議資料より)